

[illegible]

【0022】特許第4記載の項は、前記1ないしは前記2の発光素子と電圧調整部との間の電圧に前記電圧調整部における電圧調節範囲を越えて変動することはないことを特徴とする。

【0023】特許第1記載の項は、前記7ないしは前記8に記載の発光ディスプレイにおいて、オナット電圧は、発光素子と電圧調整部との間の電圧の大きさに応じて調整されることを特徴とする。

【000301】請求項1記載の発明は、請求項7乃至11に記載の発光ディスプレイにおいて、発光素子の走査回路に、接続されているように、ドライバが有する電圧制御手段を設けられることとし、ドライバが有する電圧制御手段は、電圧を制御するようにして、電圧を制御するようになっていることを特徴とする。

【0031】前項13段の発明は、図4項7ないしは12に図の発光ディスプレイにおいて、発光素子は等量性を有し、電圧であることを特徴とする。

[illegible][illegible][illegible]

を光源子の発生し上がり時間のパラメータを少なくすることでも、装置が見やすい発光ディスプレイを製造することができ、

【0033】また、マトリクス状に配置した複数の発

[illegible][illegible]

は、素子に駆動電圧を付与する駆動回路と素子にオアツット電圧を供給する駆動回路とグラウンドのいずれか一つに接続可能に構成し、任意の出力量の電流が終了し次の電流の流入まで切り替わるまでの期間に、複数のドライ電流源の電流を切り替えることで、

ブレンのすべてを定世正運に接続するとともに、複製の生産、複製ティユスブレイにおいて、複製は可変では無いである。

緑のすべをグラウンドに設置して、親子のすべでも楽しめるように構成したので、西郷通の両側によって生じる各家庭親子の遊立立ち上がり時間のバラツキが少なくすることができ、実は親子間の遊立距離の違いが少ないという点で、実は親子が見やすい見出しディスプレイを提供することになり役者

100

[illegible]

セクト回廊、4は発見回廊である。

図 1 のように、 V_{cc} (10 V) に接続され、 V_{ce} の端子はグラウンドにそれぞれ接続されている。尚、この 2 つの端子はグラウンドにそれぞれ接続されている。尚、この 2 つの端子はグラウンドにそれぞれ接続されている。尚、この 2 つの端子はグラウンドにそれぞれ接続されている。

この時は厚皮で発光させるために発光素子間に印加する電圧は、駆動回路A1～AZ6をそれぞれ21～25とされ、各周波数A1～AZ6を調製するためのドライブスウィッチ61～6Z6とを備えている。

（本出願の優先権主張書に基き、特許法第78条第2項に基づいて、その内容をここに転載します）

ている。このトランスイスタは、3段の増幅スイッチを用いており、第1の接点は開放とし、第2の接点は電圧源21～225に、第3の接点はオセレータ電圧を印加するための可変電圧源81～825に接合されている。

0036] また、同極リセット問題は、同極線入
A256 をダランド位置に接続するためのシャントスイ
チ71～725 を備えている。尚、これらの定速スイ
チ51～564、ドライブスイッチ61～6256及びシ

ントスイッチ71〜7256のオン・オフは、見光器4
間4によって制御されている。また、図中に示した重
71〜7256は、見光素子と陰極線の接点と首屈見光
子と同一の状態に解除して検出される見光素子と陰

飛越の地点の間の距離値を示すものであり、例えば、飛越点B1.1と陸羽線B1の地点xと見光米子B2.1と陸羽B1の地点yとの間の距離がr2となる。これらの距離r1～r256はそれぞれ同一の距離値rとされ

・同、ここでは、始末番号E1.1～E1.64と題意を入

り、以下に述べる事件は、阪神線B1を走査して2つ

の発光素子E1,1、E3,1を発光させた後に、図8Bの2に示すように発光素子E2,2、E3,2を発光させる場合を例として説明する。また、図明を分かり易くするため、発光している発光素子についてはダイオード記号で示し、発光していない発光素子に対してはコンデンサ

配されておいた。

[illegible]

グラウンド電位に接続されている。
【0039】従って、図1の状態の場合は、発光素子B
1.1とE3.1のみが順方向にバイアスされ、電流I21

み、発光素子E1,1とE3,1のみが発光している。このとき、ドライブされる隣接素子A1とA3の電位はそれぞれVx1, Vx3となっており、 $Vx1 < Vx3$ の関係になっている。

る。また、走査されていない領域はB2～B64とラベルされている領域A1とA3の交点にある発光素子E1.2～E1.64とE3.2～E3.64には、それぞれ正の電荷が充塞された状態となっている。この正電荷は可変電圧

道B1、B3によって荷電量B1の走査管に予め充たされたとある。これについては述べず、この充電により、発光素子B1.2 ~ B1.64の素子間電圧は $V_{s1} - V_{\alpha}$ となっているものでこれらの素子には電圧は掛けられない。

電圧はV_{B3}-V_{cc}となっているので、これらの素子には電流は流れない。また、変圧されない電圧源B2～B64とドライブされない電圧源A2及びA1～A256の交点にも電流素子の発生発別は、非零なイッチ52～564

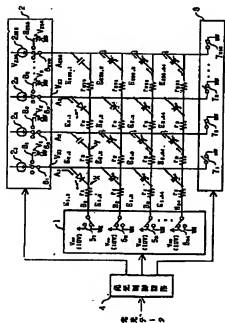
により逆バイアス電圧が印加されており、グラッド電位に接続されているシャントスイッチ72及び74〜75を介して図に示すような極性の向きに充電された状態となっている。

【0041】次に、ライン走査開始後、次のライン走査に移行するまでの間、オフセット電圧の印加を行う。具体的には、図2に示すように定電スイッチ51～56によりすべての線画素B1～B64を並列するとともに

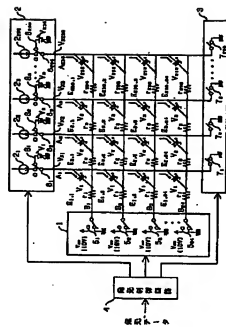
に、ドライブスィッチ61〜6256によりすべての海挺
線A1〜A256を第3の接点側に切り換えて、可変電圧
源81〜8256に接続する。また、すべてのシャントス
ィッチ71〜7256をオフとする。可変電圧源により印

るように予め設定されており、これにより、各発光素子

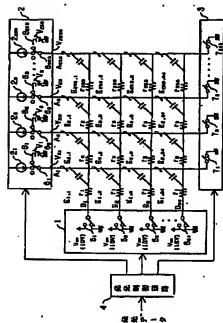
[图1]



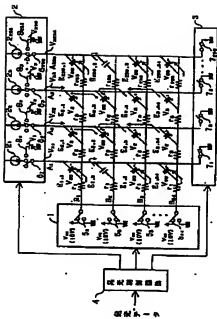
[图3]



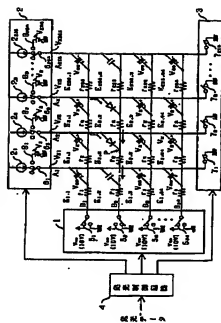
[图2]



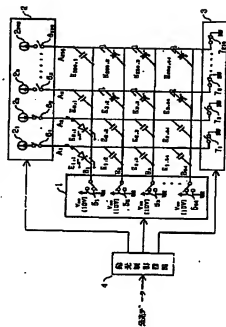
[图4]



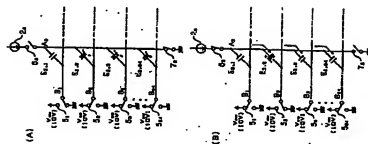
[85]



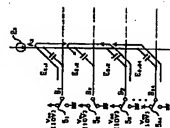
[86]



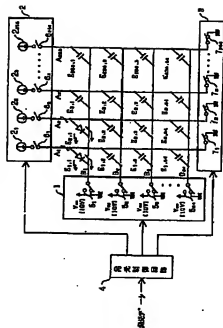
[87]



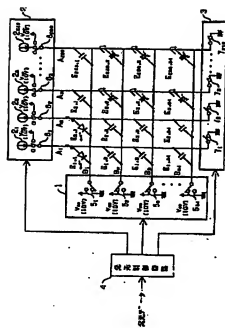
[89]



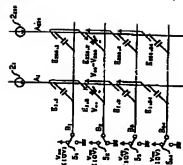
[88]



【图10】



【图12】



【图11】

